梵文法華経と他仏典のレーベンシュタイン法による比較検討

西　康友

初期大乗仏典を代表する法華経は、梵文法華経（SP）の漢訳とされる鳩摩羅什訳『妙法蓮華経』の出現によって、東アジアの多くの地域に伝承・受容され展開した。日本仏教公伝以来、『妙法蓮華経』は多くの伝統仏教・新宗教教団の所依の経典でもあることから、法華経研究は多岐に亘っているが、現存するSP写本における語彙・語形・語法・書写法・韻律などの言語学的研究は未だ不十分である。このため、法華経研究には多くの課題が残されている。

発表者はSPにおける言語学的な実証研究方法を研究協力者（黛千洋・中央学術研究所特別研究員／情報工学者）とともに模索し、レーベンシュタイン距離を応用した言語解析プログラムの手法（本発表では「レーベンシュタイン法」という）を開発した。このことで発表者らは、仏典における相互の偈文句について、レーベンシュタイン距離に基づいた類似率を算出することに成功した。この「レーヴェンシュタイン距離」とは、ロシアの数学者ウラジミール・イオシフォヴィチ・レーベンシュタインが開発した理論の一つで、「二つの文字列の類似度を示す距離」である。

先学の研究者たちによって、初期仏典と『マハーヴァスツ・アヴァダーナ』（Mv）や『ラリタヴィスタラ』（LV）に並行・類似偈文句の存在が知られていたが、相互の偈文句がどの程度類似するかは不明であった。発表者はこれまで、レーベンシュタイン法によって、以下の仏典における相互の偈文句の類似率を算出している：『スッタ・ニパータ』（Sn）、『ダンマパダ』（Dhp）、『テーラガーター』（Th）、『テーリーガーター』（Thī）、Mv、LV。発表者らはこれらの偈文句における類似率の結果について、以下の索引を刊行している：Yasutomo Nishi and Chihiro Mayuzumi. 2022. *Early Buddhist Texts, Mahāvastu-Avadāna, and Lalitavistara Parallel and Similarity Pāda Index*.『初期仏典・マハーヴァスツ・ラリタヴィスタラ―並行・類似詩脚索引』。*Philosophica Mahāyāna Buddhica Monograph Series 7*. Chuo Academic Research Institute.

本発表はこの研究を応用・発展させて、レーベンシュタイン法によるSPと他仏典の偈文句の類似率を比較し、法華経の成立・編纂について新たな知見が得られる可能性を論じている。具体例として、SPと他経典における類似率上位五十位までの偈文句を精査したところ、以下①―③の結果を得ている（SPには基準テキスト『ケルン・南條本』（KN）を用いた。KNの［ ］は章番号、頁偈番号と句を示す）。① SPとの類似率の平均はMvと八二%、LVと七三%、『ジャータカ』（Jā）と六八%、Sn, Dhp, Th, Thī の初期仏典と六七%であり、この中でSPはMv偈文句に最も近い。②以下の偈文句では言語が異なるが、語順・単語の意味は同一であることから、仏典における定型偈文句であると期待される：*pādaṅguṭṭhena kampayi*：Th1192d, 1194b / *pādaṅguṣṭhena kampayet*：KN[11]253. 19b（類似率八一%）、*khīṇāsavo antimadehadhārī*：Sn471c / *kṣīṇāsravā antimadehadhāriṇo*：KN[2]31.8c（類似率七四%）、Sn471c / *kṣīṇāsravā antimadehadhāriṇaḥ*：KN[17]

351.6d（類似率七一％）、*dhammaṃ desesi pāṇinaṃ* : Thī 306d / *dharmaṃ deśēti prāṇinām* : KN[5]139.53d（類似率七二％）、*satāni nahutāni ca* : JāVI-89.360b / *śatāni nayutāni ca* : KN[14]306.31b（類似率八九％）、*buddho loke anuttaro* : JāI-13.51b / *buddhā loke anuttarāḥ* : KN[3]70.37b（類似率八五％）、*dhammacakkaṃ pavattaya* : JāI-27.193d / *dharmacakraṃ prravartesi* : [3]69.33a（類似率六八％）。③ SP と Mv では上位七八％までが、また SP と LV では上位八三％までが同一か極めて近似の偈文句であるという結果から、SP はこれらの句を出典・参考にして編纂された可能性が高いと考えられる。

（本発表の論文は『中央学術研究所紀要』第五十三号［二〇二四年十一月］に掲載予定）。

日蓮における時の認識について

深谷　恵子

日蓮の五義は、『日蓮宗宗義大綱』で「日蓮が法華経を信解体得されるに当たり、考察の基盤とした教・機・時・国・師（序）の五箇の教判で、教と理を明らかにする。更に、宗教活動における自覚と弘教の方軌を示すものである（『宗義大綱読本』（二〇〇二年、日蓮宗新聞社、取意）」と定められており、重要な教義として位置づけされている。

時については、建治元（一二七五）年六月、身延において撰述された『撰時抄』に詳説されている。冒頭部に「夫レ仏法を学せん法は必ず先づ時をならうべし（『昭和定本』一〇〇三頁。以後、書名の記載のないものは『昭和定本』の頁とする）」と述べており、五義を研究するにあたり、日蓮の時の認識を知ることは重要なことであると考えている。

五義の時の研究は、茂田井教亨「五義の体系的考察―本尊抄と諸遺文との関連―」（『観心本尊抄研究序説』山喜房佛書林、一九六四年、所収）がある。時について「『教機時國鈔』に「知時」の語が現れ、時の自覚的表現と考えられるが、『守護国家論』（正元元（一二五九）年）にその萌芽が認められる。佐渡配流による法華経色読と『立正安国論』で未だ起こっていない自界叛逆難・他国侵逼難が起こるであろうという予言の的中によって、ますます「知時」の自覚を深め、ついに『撰時抄』『報恩抄』等に示された日蓮の歴史観が成立した」と指摘されており、「知時」に着目されている。（茂田井一九六四、二二八―九頁）。

茂田井教亨氏の研究を受け、末法の時を示す文を五義の綱目を視点として検討すると、遺文によって時と教の表記に違いがあることが分かる。これまで、日蓮の時の認識について、教と時を視点とした考察はなされていないようである。

本発表では、日蓮における時の認識が、どのように深められているのだろうかということについて、教と時を視点として考察をした。

茂田井教亨氏は「佐渡配流による法華経色読によって、「知時」の自覚を深めている」と指摘されている。釈尊滅後の教は『守護国家論』に「法華経（一〇二頁）」、『薬王品得意抄』に「本門寿量品（三四〇頁）」と表記されている。茂田井教亨氏の

ISSN　2188—3858

宗教研究

第 97 巻　別冊

第 82 回学術大会紀要特集

日 本 宗 教 学 会

2024年3月

日本宗教学会役員

会長

藤原　聖子

常務理事

芦名　定道
安藤　泰至
飯嶋　秀治
池澤　優
石井　研士
市川　裕
岩田　文昭
大谷　栄一
奥山　倫明
川橋　範子
木村　敏明
小原　克博
櫻井　義秀
下田　正弘
杉村　靖彦
寺戸　淳子
土井　健司
平藤喜久子
深澤　英隆
細田あや子
堀内みどり
松村　一男
蓑輪　顕量
宮本要太郎
村上　興匡
矢内　義顕
八木久美子
矢野　秀武
山中　弘
弓山　達也

編集委員

青柳かおる
板井　正斉
伊藤　雅之
伊原木大祐
勝又　悦子
小島　伸之
佐藤　啓介
柴田　大輔
島田　勝巳
高橋　原
冨澤　かな
西村　明
萩原　修子
藤本　頼生
別所　裕介
前川　健一

大田南畝の信仰……木村　中一…二五
高橋智遍の利益観……内村　琢也…二六
オールド・リベラリストと日蓮主義……大西　克明…二七
戦後日本の仏教福祉……寺田　喜朗…二八
近代曹洞宗におけるメディア利用の変遷……武井　謙悟…三〇
近代日本仏教の社会倫理……島薗　進…三一
善友の形象に関する一考察……筒井　奈々…三三
『カチェン・カクルマ』における
　王権と神仏習合……槇殿　伴子…三四
『順正理論』における根見説・識見説論争……那須　円照…三五
『彰所知論』のモンゴル仏教における位置……阿部　真也…三六
旧本『八千頌般若』復元の試み……庄司　史生…三七
〈無〉（abhāva）をめぐる
　インド哲学の議論の諸相……丸井　浩…三九
浄影寺慧遠『観経疏』の受容背景について…山名　深…三〇
大乗仏教は縁起説なのか……佐藤　伸郎…三一
道元仏性論の存在論的位置……辻口雄一郎…三二
山東京伝における一休像……飯島　孝良…三四
釈宗演における禅と修養……蓮沼　直應…三五
ルース・フラー・佐々木と日米第一禅協会…守屋　友江…三六
善導の修道体系における懺悔の位置……眞田　慶慧…三八
親鸞の浄土観における
　「極楽無為涅槃界」の射程……松岡　淳爾…三九
妙音院了祥の『歎異抄』理解について……鶴留　正智…四〇
親鸞思想における
　「真仏弟子」の主体について……藤井　了興…四一
珍海『決定往生集』における菩提心……松尾　善匠…四二
毎田周一の浄土観……近藤　義行…四三
梵文法華経と他仏典の
　レーベンシュタイン法による比較検討……西　康友…四五
日蓮における時の認識について……深谷　恵子…四六
『立正安国論』と『唱法華題目鈔』の
　関連をめぐって……矢吹　康英…四七
草山元政「七面大明神縁起」について……桑名　法晃…四八
日蓮伝記と日蓮伝承……望月　真澄…五〇
近世の成田不動と日蓮宗祖師信仰に表れた
　現世利益……小泉　壽…五一
近代日蓮宗と議会……平澤　是芳…五二
仏教と精神分析……三輪　是法…五三
コロナ禍前後の「祈り」表現の変化……和田　理恵…五五
コロナ影響下の若者の宗教活動……坪井　俊樹…五六
災害と慰霊……野村　任…五七
コロナ禍における
　葬送儀礼の変化と僧侶の課題意識……髙瀬　顕功…五八
宿坊と葬墓の現代的接合による
　「永代関係人口」の創出可能性……和栗　隆史…五九
アンケート調査から見る
　月参りの実態と減少の要因……小川　有閑…六一
都市化にともなう寺院空間の変容……小高　絢子…六二

白隠禅師による
　地獄とその役割について ……竹下ルッジェリ・アンナ…三〇七
現代日本における怪異文化の展開について …古山　美佳…三〇八
世俗と宗教のあいだ ……近藤　光博…三〇九

Panel

Translation Matters

Summary of Panel Presentations…OKUYAMA Michiaki…三一三
Waka in Religious Contexts ……Molly VALLOR…三一四
The Philosophical Dimensions of Translating
　and the *Shugendō* Case ……Andrea CASTIGLIONI…三一五
Tourism and Translating Japanese
　Religions ……Mia TILLONEN…三一六
Translating the "Kokoro" in Spiritual
　Care ……Timothy O. BENEDICT…三一八

MAKIDONO Tomoko, Kingship and Religious Syncretism as Seen in the *bKa' chems ka khol ma* 224
NASU Enshō, On the Theory of Knowledge in the *Nyāyānusāra* 225
ABE Shin'ya, *Shes bya rab gsal* in Mongolian Buddhism 226
SHŌJI Fumio, A Study of the Old Version of *Aṣṭasāhasrikā Prajñāpāramitā* 227
MARUI Hiroshi, Various Phases of Discussion on Absence or Negation (*abhāva*) in Indian Philosophy 229
YAMANA Jin, The Background to the Reception of Jingyingsi Huiyuan's *Guanjingshu* 230
SATŌ Noburō, Is Mahayana Buddhism Co-dependent Arising? An Analysis of the Third Area Asserted by Ishizu Teruji 231
TSUJIGUCHI Yūichirō, The Ontological Position of Dōgen's Buddha-Nature Theory 232
IIJIMA Takayoshi, The image of Ikkyū Created by Santō Kyōden: Symbolization of Zen in Edo-Period Literature 234
HASUNUMA Naotaka, The Relationship between *Zen* and *Shūyō* in the Thought of Shaku Soyen 235
MORIYA Tomoe, Ruth Fuller Sasaki and the First Zen Institute of America in Japan 236
SANADA Keie, The Position of Repentance (kşama) in the Training System of Shandao 238
MATSUOKA Junji, The Range of the Phrase *Gokuraku-mui-nehangai* in Shinran's View of the Pure Land 239
TSURUDOME Masatomo, Myōon'in Ryōshō's Understanding of the *Tannishō* 240
FUJII Ryōkō, The Subject of the True Disciple of Buddha in Shinran's Thought . . . 241
MATSUO Zenshō, Bodhichitta in Chinkai's *Ketsujōōjōshū* 242
KONDŌ Yoshiyuki, Maida Shūichi's View of the Pure Land 243
NISHI Yasutomo, Comparative Study of the *Saddharmapuṇḍarīka* and Other Buddhist Texts Using the Levenshtein Distance 245
FUKAYA Keiko, The Perception of the Latter Days of the Buddhist Law in Nichiren Buddhism 246
YABUKI Kōei, On the Relationship between *Risshō Ankoku Ron* and *Shōhokke Daimoku Shō* 247
KUWANA Hōkō, Regarding "The Shichimen Daimyōjin Engi" Writen by Sōzan Gensei 248
MOCHIZUKI Shinchō, Nichiren Biography and Nichiren Folklore: Focusing on Nichiren's Pilgrimage to Kai 250

JAPANESE ASSOCIATION FOR RELIGIOUS STUDIES

President FUJIWARA Satoko

Directors

ANDŌ Yasunori
ASHINA Sadamichi
DOI Kenji
FUKASAWA Hidetaka
HIRAFUJI Kikuko
HORIUCHI Midori
HOSODA Ayako
ICHIKAWA Hiroshi
IIJIMA Shūji
IKEZAWA Masaru
ISHII Kenji
IWATA Fumiaki
KAWAHASHI Noriko
KIMURA Toshiaki
KOHARA Katsuhiro
MATSUMURA Kazuo
MINOWA Kenryō
MIYAMOTO Yōtarō
MURAKAMI Kōkyō
OKUYAMA Michiaki
ŌTANI Eiichi
SAKURAI Yoshihide
SHIMODA Masahiro
SUGIMURA Yasuhiko
TERADO Junko
YAGI Kumiko
YAMANAKA Hiroshi
YANO Hidetake
YAUCHI Yoshiaki
YUMIYAMA Tatsuya

Editors

AOYAGI Kaoru
BESSHO Yūsuke
FUJIMOTO Yorio
HAGIHARA Shūko
IBARAGI Daisuke
ITAI Masanari
ITŌ Masayuki
KATSUMATA Etsuko
KOJIMA Nobuyuki
MAEGAWA Ken'ichi
NISHIMURA Akira
SATŌ Keisuke
SHIBATA Daisuke
SHIMADA Katsumi
TAKAHASHI Hara
TOMIZAWA Kana

宗教研究 第九七巻別冊

二〇二四年三月三〇日 発行

発行 日本宗教学会
代表 藤原聖子

編集

制作 三美印刷(株)

〒113-0033 東京都文京区本郷三―二四―一 伊藤ビル三〇一

日本宗教学会

電話 〇三―五六一五―九二〇八
FAX 〇三―五六一五―九二〇九
URL https://jpars.org/
振替 〇〇一三〇―五―四一七二七

JOURNAL
OF
RELIGIOUS STUDIES

Vol. XCVII Supplement

THE PROCEEDINGS OF THE EIGHTY-SECOND ANNUAL CONVENTION OF THE JAPANESE ASSOCIATION FOR RELIGIOUS STUDIES

JAPANESE ASSOCIATION FOR RELIGIOUS STUDIES

March 2024